

1. 分析結果

宮古短大部の全体集計の結果については、6選択の質問項目において の低評価・否定的評価が合計10%を超えている項目は、Q1、Q5、Q11、Q13であった。5選択の項目は の合計は10%未満であった。今回の評価の傾向は、6選択の各質問では に、5選択の各質問では に評価が集中しているのが特徴で6選択の 、あるいは5選択の には比較的评价が少ないが、これらは前回評価と方法が異なっているため単純に比較はできない。

個別の項目では、Q1「この授業にはもともと強い関心がありましたか」、Q4「この授業に真剣な態度で参加できましたか」については、約半数が強い関心がある傾向である。この評価は、逆に半数が関心が比較的薄い状況ともとれる。Q5の「この授業の予習、復習や課題等に積極的に取り組みましたか」では、そう思わない合計が56.3%である。Q7「授業を進める速度はあなたにとってどうでしたか」、Q8「授業の難易度はあなたにとってどうでしたか」については、項目に80%前後が集中しておりほぼ適切と考えられるが、Q8では、難易度が易しい に52.8%が集中しており、選択項目が5つと見られた可能性を否定できないと考えられ、今後の学生評価の例をみていく必要がある。

Q9は「授業技術や準備について特に改善すべき項目」については、主に「教員の話し方」「教材や板書の使い方」「授業内容の構成」に改善を望む声が多い。Q10「教員の熱意をどの程度感じましたか」については、64.6%の2/3に近くが全体として熱意を感じているが、1/3余りが熱意を感じない傾向にある。Q12の「この授業で得たものは多かったと思いますか」と、全体としてのQ13の「総合的に考えて授業を受けて満足できましたか」については、満足60%程度、不満40%程度でグラフの形も似たような傾向にある。

2. 課題

Q1とQ4については、授業について約半数が強い関心があり、真剣な態度での参加である傾向である。この評価は、逆に半数が強い関心が持てない、あるいは真剣な態度での参加ではない状況ともとれるので、授業内容に対するさらなる周知を行う必要がある。Q10の教員の熱意については、64.6%の2/3近くが全体として熱意を感じているが、1/3余りが熱意を感じない傾向という部分については改善の余地がある。Q12の授業で得たものと、全体としてのQ13の総合的に考えて授業を受けて満足については、満足60%程度、不満40%程度でグラフの形も似たような傾向にあるが、 が中心である40%程度の不満の傾向を少なくする努力は必要と考えられる。

3. 改善策

Q1やQ4の結果から、当初に授業内容、目的に対する説明は行っているが、全体として学生によく理解されていない傾向が読み取れる。当面は、現在も行っている授業の目的、他科目との関連、連携等の説明を学期の中間で再度説明するといった工夫が必要かと思われる。この作業の周知徹底を行うことにより、Q10、Q12、全体のQ13についても評価が上がることを期待する。